

ロシアのウクライナ侵攻をどう考えるか

緊急課題と長期課題

2022年3月26日

北海道 AALA 学習会

鈴木頌

ウクライナ紛争の2つの骨組み

北海道 AALA の月例学習会で、チューターとして発言したときのメモです。紛争解決のためどのようなロードマップが必要かを考えてみました。

そしてこの問題は2つの枠組みから構成されており、解決の仕方も異なることを理解する必要があると発言しました。

同時にその2つは切り離しがたく結びついており、永続的な和解のためには2つがともに解決することが必要だとも発言しました。

A. ロシアによる不法行為

これは主としてロシアがウクライナに加えた不法行為の体系です。

時系列的に見ると以下の3つの不法行為が重畳しています。

- * ロシアが武力で脅迫
- * ロシアが武力侵攻を実施
- * ロシアの戦闘の無差別凶暴化

それらはいずれも国際法上許されざる不法行為であり、しかも時系列的に悪質化しています。

B. NATO の東方進出とロシア

紛争を俯瞰するためには、ソ連・東欧圏崩壊後の30年、地政学的にはウクライナだけでなく東欧全体を見渡すことが必要です。

そうすると、この30年の間に両者の勢力バランスが激変したこと、それも一般的な激変ではなく、NATO 勢力が怒涛の勢いで東方に進出したこと、がわかります。

ウクライナとの紛争はその最終ラウンドとも言うべき様相を帯びており、ロシアはこれに激しい恐怖感を抱いております。したがってこの紛争は NATO との代理戦争という側面を持っています。

この状況は複雑な様相を帯びており、一筋縄では行きません。両者の妥協が必要でしょう。

さらに言えば、根本的には軍事同盟という枠組みや抑止力という発想そのものが危険の種になっていることを認識すべきでしょう。

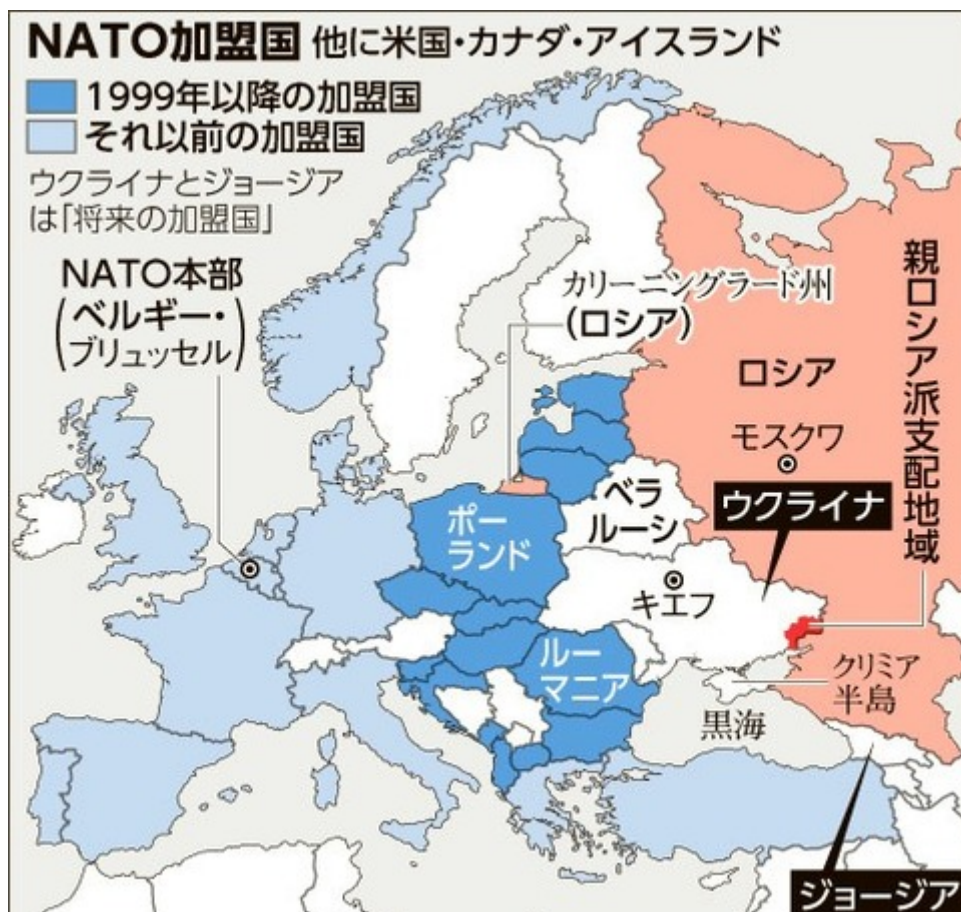


図 ウィキペディアより

紛争解決に向けて： 短期課題と中長期の課題

A. 短期課題： ウクライナにおける不法状態の停止

1. ロシアがなすべき3つの措置

これはロシアの3つの不法行為、すなわち

- * ロシアの武力による脅迫
- * ロシアの武力侵攻と武力行使
- * ロシアの非人道的戦闘行為

を止めさせ、当面、開戦直前の状態（クリミアなどもふくめ）に復帰させることです。そのためには、ロシア軍の撤退とロシアによる安全の保証が必要です。

2. 停戦監視組織と復興支援

残余のことは交渉事ですから、ある程度力関係によって規定されざるを得ません。独仏を見届け役としたミンスク合意は、ご破産にせざるをえないでしょう。

ただ、進行過程は国連中心主義で、多国間合意にもとづいて決められるべきでしょう。

3. ロシアの戦争責任と賠償責任

これはいま問うても仕方ないのですが、今後はロシア国内で、否応なしに情報が公開されるようになるので、ロシアの国内世論が厳しく問いただすことになるでしょう。

B. 中長期の課題

ウクライナ紛争はロシアとNATOの対立がもたらした代理戦争でもあります。この2つの軍事ブロックの対立が解消しない限り、ロシアの不安と苛立ちは残り、第二の紛争（たとえばベラルーシやジョージア）が起きる危険はつねにあります。

したがって、軍事的中立化を軸とする平和構築の課題は必須です。

これは国内民主化の課題や非軍事的な共同体である EU との関係などとは独立して、一種の国是として考慮すべきです。

1. 国際間の「ウクライナ協約」を

ロシア、NATO のみならず、周辺諸国でウクライナの平和を保証する協約を結ぶことが必要です。

ウクライナはその保証の下で中立・自衛・非同盟の国造りを行うことになるでしょう。

2. 周辺諸国が互いに安全を保証する

ロシアと NATO は相互に敵視することを止め、相互不可侵とパートナーシップの関係を確定することが必要です。

それぞれの国で、民主主義をめぐる問題が浮上することもあるかも知れませんが、その際も相互不可侵を貫くことが大事です。

3. 軍事同盟としての NATO は改組・廃止する

元来 NATO はロシアを敵視する一方的な軍事同盟です。国連の立場から言えば明らかに不必要で、ない方が好ましい組織です。

自衛権と抑止力は違う概念です。相手を威嚇し押さえつける抑止力の考えは、21世紀にふさわしくありません。

例えばロシアがこういうことを約束すれば、NATO を改組し、対等のパートナーシップを結び、互いの敵意を解消するという条件を、NATO の側から提案することが求められます。

4. 一切の、国連の議を経ない軍事同盟は廃止する

ここまでは流石にロードマップには入らないでしょうが。

NATO は世界最大の軍事同盟ですが、他に日米・米韓の安保条約、南北アメリカ諸国が加わる米州安保などがあり、いずれも米国を盟主とした軍事同盟です。それは米国が世界を武力支配するためのネットワークの一部となっていま

す。

どうして世界中が米国の軍事同盟下に入らなければならないのでしょうか。入らない国（非同盟諸国など）の多くが攻撃を受けたり、制裁されて困っているのはなぜでしょうか。「いじめられるようなことをしたから悪いんだ」で済まされる話でしょうか？

心の課題

ロシアが二重にも三重にも積み上げた不法行為に、世界中の人々が義憤を抱いています。それは2度にわたる国連総会決議で明確に示されました。

こう語るのは辛いのですが、相争う双方が怒りや正義を共有するのは難しいことでしょう。互いが共有できるとすれば、それは戦いのもたらす悲しみであり、平和への願いであります。

そういう心をどう育てていくかが、短期にも長期にも、もっとも大事な課題となっていくでしょう。